



人とクルマのいい関係をめざして

10
2008 OCTOBER

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
 本田技研工業株式会社
 安全運転普及本部内
 電話 03(5412)1736
 ●編集人：千葉英雄
 ●年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
 ※郵便振替 口座番号：00170-7-173273
 ※加入者名：(株)アストクリエイティブ
 安全運転普及本部係

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

**今月の
スポット**

私たちが地域における交通安全活動のありたい姿を先行して構築することで、Hondaの他の事業所が同様の活動をする際の見本となり、さらに多くの地域で展開することが可能になります。(特集より)

CONTENTS

- 特集:熊本から始まるHondaの新たな交通安全普及へのチャレンジ……………①
- 地域に交通安全を普及させるための仕組みづくり……………②
- 教育最前線⑦……………③
- 神奈川県自動車ディーラー交通安全対策推進協議会・保土ヶ谷地区安全運転講習会/地域社会の交通安全に貢献するために県内のディーラーが、一致団結して取り組む
- 私の提言……………④
- 高山俊達/子どもたちが行う地域の交通安全活動。「交通少年団」を通じて、交通社会人を育てよう!
- 危険予測トレーニング(KYT)……………④
- 第6回「渋滞車両の左横を走行していたら…」(二輪車)
- TRAFFIC ADVICE—交通教育センターから……………⑤
- 親子でバイクを楽しむ会/バイクを運転する体験を通じて親子の絆を深めてもらう
- TOPICS……………⑥
- 平成20年 秋の全国交通安全運動 高齢者交通安全のついで/秋の交通安全運動にASIMOが協力
- DOCUMENT EYE ②③……………⑥
- 信号機のある交差点で小学生の左右確認状況を観察する

特集:熊本から始まるHondaの新たな交通安全普及へのチャレンジ

地域に交通安全を普及させるための仕組みづくり

本田技研工業(株)は同社熊本製作所の中に「安全運転普及グループ」を設置した。熊本を拠点とし、九州エリアにおける安全運転および交通安全の普及のために、Hondaの協力会社や二輪・四輪販売会社、警察署、自治体と連携した活動の仕組みづくりをめざしている。この安全運転普及グループを中心に、地域と一体となって始まった新たな交通安全教育への取り組みを紹介する。



熊輪会インストラクター養成研修で参加者は二輪・四輪の安全運転の指導方法を身につけた。また、「あやとりい」や「あやとりい 自転車教室」も体験。幼児・児童への交通安全指導にも理解を深めた

今年4月、本田技研工業(株)熊本製作所に安全運転普及グループ(以下、熊本安全運転普及グループ)が設置され、地域に根ざした安全運転普及活動が始動した。熊本製作所はホンダの二輪車生産が集約されており、世界に二輪車を発信していくマザー工場としても位置づけられている。地域における安全運転および交通安全の普及においても、そのノウハウを熊本から発信し、九州エリアさらには全国に展開していくという目標があるのだ。

熊本安全運転普及グループの安岡廣幸グループリーダーによると、まず熊本での活動を核に九州エリアの他県に活動範囲を広げていくことから取り組んでいるという。「熊本安全運転普及グループ」だけで九州エリアすべてをカバーすることはできません。そこで、九州各地にある

九州武蔵精密(株)で開催された「第1回人吉地区親子交通安全教室」。同社の従業員とその子どもを含め、周辺地域からも多くの親子が集まった



ホンダの協力会社や二輪・四輪販売会社に私たちの考え方に賛同していただき、一緒に活動していこうと考えています。さらに、ホンダが持つ安全運転や交通安全教育に関するノウハウを各地域に提供し、地域が主体となって活動していただくことをめざしています。

具体的には、ホンダの協力会社(熊輪会)でのインストラクター養成、地域での交通安全活動の推進、二輪・四輪販売会社と連携した安全運転普及活動の展開、交通安全教育プログラム「あやとりい」の普及などが進められている。

熊輪会インストラクターを核とした地域活動の推進

熊輪会とは本田技研工業(株)熊本製作所および九州エリアの協力会社38社で構成される組織である。会員企業のうち9社(九州ティ・エス(株)、九州武蔵精密(株)、九州柳河精機(株)、合志技研工業(株)、(株)小林製作所熊本工場、東洋電装(株)、(株)ホンダロジスティクス、(株)ホンダロック、(株)山田製作所)がまず、安全運転普及活動の中核となるインストラクターを養成する。そのための養成研修を7月に、交通安全センター(熊輪会)熊本で行い、参加した18名が熊輪会インストラクターとして認定された。研修の内容は二輪・四輪の実践トレーニングと安全運転指導のロールプレイ。座学では交通安全教育プログラム「あやとりい」について、鈴鹿モビリティ研究会の指導員が解説した。

今後は、この18名の熊輪会インストラクターが核となり、熊輪会各社とその地域が一体となった交通安全のイベント



①歩行者の飛び出し実験
30km/hで走るクルマの前に駐車車両のカゲからダミー人形が飛び出し、どんなに運転が上手なドライバーでも急な飛び出しには対応できないことを伝える。



②自転車の左折巻き込み実験
自転車が左折するトラックに巻き込まれるという事故を再現。左折しようとするトラックの左脇にいる自転車はトラックの後輪の下敷きとなった。子どもたちに、交差点では左折しようとするクルマのそばに近づかないことをアドバイス。



③死角の確認
インストラクターが運転席に座り、数人の子どもたちにクルマのまわりを立ってもらい、もう一人のインストラクターがビニール製のひもで子どもたちが見えない範囲を示した。保護者にも運転席に座ってもらい、クルマの真後ろにいる小さい子どもは見えないことを確認してもらう。



④シートベルトコンビンサー体験
シートベルトコンビンサーで5km/hからの衝突を体験して、子どもと保護者にシートベルトの効果を確認してもらう。

や、幼児から高齢者を対象にした交通安全指導、そして、熊輪会各社の従業員を対象にした安全運転の実技講習会などを実践していくことになっている。

地域活動の第1弾として、7月12日、九州武蔵精密(株)(熊本県球磨郡錦町)で、親子を対象に「第1回人吉地区親子交通安全教室」を開催。同社と錦町や人吉市など周辺の6市町村が共催し、参加者は予想を上回る251名に達した。指導は熊本安全運転普及グループと、九州武蔵精密(株)の熊輪会インストラクターが担当した。親子交通安全教室は午後1時から3時30分までの2時間半で、以下の実験や体験などを行った。

特集：熊本から始まるHondaの新たな交通安全普及へのチャレンジ

熊本での活動を核に九州エリアの各地で地域に根ざした交通安全の普及をめざす



実際にトラックに巻き込まれた自転車を見せることで、左折するクルマの脇を走る時の危険性を子どもたちに伝えた

参加者の多くは、小学生やその保護者。富元義博さんは小学3年生と6年生の2人の子とも参加。「このような交通安全教室に参加するのは初めてです。ちょうど下の子が自転車に乗り始めたところで、飛び出しや左折巻き込みの実験はピッタリの内容でした。子どもたちは実験を見て驚いていましたので、道路での飛び出しには注意してくれると思います」。親にとっても子どもへの安全教育をするうえで学ぶこと多い教室だったようである。

熊輪会インストラクターとして指導を担当した九州武蔵精密(株)の谷口正樹さんは、「子どもたちへの理解促進を図るには、楽しみながら学べる場を提供することが重要だと感じました。また、子どもへの指導を実践して勉強になりました」と、初めての実践の場からさまざまな収穫を得たようだ。同じく田上治喜さんは、「今回は熊本安全運転普及グループの方々に協力していただきましたが、今後は私たちが主体となっていくかなければなりません。当社の周辺地域の交通安全活動を推進するという役割はたいへん大きいものだと思います」と、力強く語ってくれた。

安岡リーダーは「参加者が予想以上に集

二輪販売店との連携による安全運転普及活動

まり、地域の交通安全への関心の高さを感じています」という。「こうした地域の要望に応えて、研修で学んだ知識と技術を發揮し、地域になくてはならない活動を実施する企業として活動してほしい」と熊輪会インストラクターに期待する。

12月には(株)ホンダロック(宮崎県宮崎市)が主催する同様の交通安全教室が予定されているなど、熊輪会の活動は熊本から宮崎へと広がろうとしている。



自分のバイクで約10mの距離をどれだけ遅く走るかを競う低速バランスコンテスト。苦戦するライダーが多かった



親子バイクスクールではライダーであるお父さんが子どもに運転のアドバイスをを行った

二輪販売店との連携として取り組んだのは、9月20、21日に阿蘇ファームランド(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)で行われた「九州ホンダドリーム合同ミーティング」への協力である。このミーティングは九州エリアにある14のホンダドリーム店によるイベント。2回目となる今年には九州各地からバイクやクルマを利用してお客様とその家族205名が集まった。「ホンダのバイクを愛用していただいているライダーや、その

家族に安全運転についての理解を深めてもらう機会にしたい」と安岡リーダーはいう。イベントとして、ライダー向けに約10mの距離をどれだけ遅く走るかを競う「低速バランスコンテスト」、家族向けには親子が子どもにバイクの安全な乗り方を教え、ルールを守ることを大切さを伝える「親子バイクスクール」を開催。これには熊本安全運転普及グループをはじめ熊輪会インストラクター5名もサポート役として参加した。また、夜に行われた交流会の冒頭では安岡リーダーが、ホンダの安全運転普及活動をお客様に紹介。さらに、インストラクターがAED(Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器)による



AED講習会ではインストラクターが実践しながらAEDの使い方を説明

応急救護の重要性について説明した。参加したライダーたちからは「自分が普段乗り慣れているバイクでも、低速でうまくコントロールするのは難しいことがわかった」「実際に使いながら説明してくれたといえます」。

今回は鈴鹿モビリティ研究会の指導員が指導を担当したが、熊本安全運転普及グループが指導できるようにして、大津町内にある6校すべての小学校で「あやとりい」を使った授業を実施する予定だ。また、安岡リーダーは、地元交通安全協会の指導員も授業を見学し興味を持たれていたの

九州エリアにおける「あやとりい」の普及

熊本安全運転普及グループでは、九州エリアにおける交通安全教育プログラム「あやとりい」の普及もめざしている。その第一歩として取り組んだのは、熊本製作所のある大津町内の小学校での「あやとりい」を使った授業。9月2日、室小学校と護川小学校の2校で児童を対象に鈴鹿モビリティ研究会の指導員が「あやとりい」の教材を使って指導。児童に道路のどこを歩くのが安全か、また道路を渡る時の「止まる」「見る」の重要性を伝えた。



熊本県大津警察署・野田素明 交通課長

この授業を見学した熊本県大津警察署の野田素明交通課長は、「あやとりい」の普及に期待を寄せる。「あやとりい」による教育は子どもにも「考えてもらう」「体験してもら」

※1 あやとりい＝鈴鹿モビリティ研究会が開発した交通安全教育プログラム。幼児向けの「あやとりい ひよこ編」、小学3・4年生向けの「あやとりい」、小学生向けの「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく ときあかし りかいて いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/

※2 鈴鹿モビリティ研究会＝鈴鹿市とHondaが、将来のより良い交通環境づくりをともに進めることを目的として1993年に設立され、道路環境の改善や交通安全プログラムの開発、教育の実施などを行っている。

※3 Honda DREAM店＝スポーツバイクのお客様が求めるより高い付加価値とサービスに対応できるスポーツバイクの販売店。

このように、熊本安全運転普及グループは地域における効果的な交通安全教育の仕組みづくりと、それを実践する指導者の養成を担う。「成功事例とそのノウハウを蓄積することが重要です。私たちが地域における交通安全活動のありたい姿を先行して構築することで、ホンダの他の事業所が同様の活動をする際の見本となり、さらに多くの地域で展開することが可能になります」と安岡リーダーはこれからも先を見据えて活動していく考えだ。



熊本県大津町内の2つの小学校で「あやとりい」による授業が行われた